



Vol.127

CONTENTS

【コラム】東京都港区立青山小学校の ICT 環境を用いた教育・学習について…関谷 貴之

【解説】GIGA スクール構想を推進するための環境整備のすすめ…尾崎 拓郎

【解説】第 14 回全国高等学校情報教育研究会全国大会（大阪大会）…井手 広康



COLUMN

東京都港区立青山小学校の ICT 環境を用いた教育・学習について



GIGA スクール構想で小学校の教育現場はどのように変化したのだろうか。東京都港区立青山小学校^{☆1} の状況を同校校長の高山直也先生から伺う機会があったので、一例として本稿で紹介する。

青山小学校は 1 学年 1, 2 クラスの小規模校である。港区は GIGA スクール構想への対応としてキーボード付カバーを付けた iPad を区立小・中学校の児童・生徒に 1 人 1 台配備しており、同校では 2020 年 10 月に配備が完了した。以前より各教室に教員用の PC や大型ディスプレイ等があったが、GIGA スクール対応として区が無線 LAN の速度強化等を行ったほか、学校独自に iPad 用の三脚等を配備して、オンライン授業を実施可能とした。

青山小学校において、ほぼ全教科で iPad は活用されているが、ここでは 6 年生国語の熟語学習での利用例を示す。まず教員が熟語のパターン（「○○的」のような 2 文字 + 1 文字や「松竹梅」のような 1 文字 × 3 等）を説明する。児童は各自の iPad 上のアプリに表示された熟語を指で動かして各パターンに分類する。iPad の画面は大型ディスプレイに集約表示されており、児童同士が容易に考え方を共有できる。そのほか、科目によらず NHK for School^{☆2} が教材の 1 つとして広く活用されている。

国が東京都への緊急事態宣言の発令期間を 2021 年 9 月まで延長したことから、港区は 2 学期の小中学校の授業をハイブリッド型として、児童・生徒が学校で授業を受けることとオンラインで授業を受けることを選択可能とした^{☆3}。同校では 1 クラス約 30 名のうち、オンライン参加の児童数は、最も多いときで 10 人程度、9 月下旬は 2, 3 人であった。授業は教員 1 名が Microsoft Teams で行う。iPad を三脚に設置して、液晶側のカメラで教員自身や黒板などを撮影し、カメラの映像やオンライン参加の児童の様子を iPad で確認する。

ハイブリッド授業の苦労は多々あるが、その中でも特にオンライン参加の児童向けの学習課題等を事前に準備する労力が大きい。毎週末教員はがくぷり^{☆4}を用いて、翌週 1 週間分の予定と準備物をオンライン参加の児童に送る。また、ネットモラルや児童間での学習外使用等の指導^{☆5}に学校も家庭も頭を悩ませている。一方、不登校傾向や体調が常にすぐれないなど学校に通いづらい児童でも、オンラインで授業に参加できるのが、ハイブリッド授業の利点である。教室では周囲の様子に敏感に反応してしまうが、自宅なら落ち着いて学習できる児童もいるとのことである。

「オンラインでも学習・就業の機会を得られる場が今後増えるのでは」との高山先生のご意見を載せて本稿を閉じる。

☆1 <https://aoyama-es.minato-kyo.ed.jp>

☆2 <https://www.nhk.or.jp/school/>

☆3 東京都港区教育委員会事務局学校教育部「幼稚園、小中学校における 2 学期開始以降の感染症対策の取組の強化について」、令和 3 年 (2021 年) 8 月 27 日、<https://www.city.minato.tokyo.jp/kyouikushien/documents/shousai.pdf>

☆4 学校と家庭との文書配布や各種連絡に用いる双方向学校特化アプリ、<https://gakupuri.jp/>

☆5 Teams でほかの児童を退出させる、コールしてワン切りする。などのトラブルが発生した。長時間ネットゲームや YouTube を利用するなどの問題もある。そこで、港区および同校がタブレットの使い方やハイブリッド授業に関する資料を作成しており、問題が顕著になったときに、朝会での一斉指導や各学級での学級指導を行っている。資料の一例：港区教育委員会「1 人 1 台のタブレット端末を活用した新たな学び」、2020 年 12 月、<https://www.city.minato.tokyo.jp/kyouikushien/documents/leaflet.pdf>



関谷貴之（東京大学情報基盤センター）（正会員） sekiya@ecc.u-tokyo.ac.jp

東京大学情報基盤センター助教。博士（工学）。学習管理システムの設計・運用等を担当している。また、高等教育機関のシラバスの収集や分析に関する研究を行っている。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno